

## 実践報告

## 母性看護学における知識構成型ジグソー法の学生評価

Student Evaluation of the Knowledge Constructive Jigsaw in Maternal Nursing

中村幸代<sup>1)</sup> 竹内翔子<sup>1)</sup>

Sachiyo Nakamura Shoko Takeuchi

キーワード: 母性看護学、知識構成型ジグソー法、学生評価

Key Words: Maternal Nursing, Knowledge Constructive Jigsaw, student evaluation

## 1. 緒言

昨今、教育の場におけるアクティブラーニングの重要性が高まっており、その導入が急速に進展している(eラーニング戦略研究所, 2017)。文部科学省は、新しい学習指導要領等が目指す姿で、学習者が能動的に学ぶことによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験などの汎用的能力の向上や育成を目指すとし、教育の現場におけるアクティブラーニングを推奨しており(文部科学省, 2015)、看護教育の現場でも、アクティブラーニングが導入されている。看護学においては、医療の高度化や価値観の多様化に伴い、変化する国民ニーズに対応できる高度な看護実践能力が求められている(公益社団法人日本看護協会, 2015)。公益社団法人日本看護協会(2015)は、「2025年に向けた看護ビジョン」の中で、チーム医療の中でのマネジメント能力や意思決定支援能力などを看護師の重要な役割としてあげている。これらの能力を獲得するためには、看護基礎教育から多様な価値観を認め理解する力、正解のない課題に自分の考えを生み出す力、他者と協調しながら解決する力を養成していくことが重要である。

知識構成型ジグソー法は、上記の能力を育成する学習法であり、2010年に東京大学大学院教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF)で開発された。知識構成型ジグソー法の目的は、学生同士が対話を通して、主体的、協働的に、課題に取り組んでいくことであり、Aronson(1978)が開発したジグソー法の目

的である人種の融合などの学生の関わり合いとは目的が異なっている。知識構成型ジグソー法では、1つの課題を3つまたは4つに分け、それぞれを3~4人グループの1人ずつが分担し、学習を深める。さらに学習を深めたものを持ち寄って互いに自分が学習した内容を教え合い、ジグソーパズルを解くように協力して課題を達成していく。この学習プロセスにより、知識の深化、思考力、発想力、表現力、コミュニケーション力の育成に効果的であることが報告されている(CoREF, 2015)。

看護学における高度化・多様化は、母性看護学でも同様である。女性の生き方の多様化、遺伝・不妊領域医療の進化、晩産化、ハイリスク合併妊婦の増加、少子化や子育て支援の脆弱化等、女性を取り巻く環境が日々変化しており、母性看護学の果たす役割は拡大している。母性看護学概論は、看護大学生が母性看護学の中で最初に学習する科目であり、女性のライフサイクルを通じて発達していく健康課題および変化する社会において、女性が抱える生活上の課題、保健・医療・福祉における母性看護の役割とあり方について学ぶ科目である。また看護学では、基本的な知識の理解のみならず、大部分が正解のない課題に対し考え、多様な意見を参考に自らの答えを生み出していくことが必要であり、その特徴は母性看護学でも同様である。母性看護学の基本的概念であるリプロダクティブヘルスは、「性と生殖に関する健康」を指し(World Health Organization, 1994)、人々が性と生殖に関する健康問題を予防し、解決することによって、女性が安全で満ち足りた生活を

Received: July, 29, 2019

Accepted: November, 28, 2019

1) 横浜市立大学大学院医学研究科母性看護学分野

営む事ができる自由を持つ事を意味する。つまり、国や文化が異なれば課題も異なることから、多様な意見を参考にしながら自らの考えを深めていくことが求められる。そのため、この概念を学ぶ科目である母性看護学概論に、思考力や発想力の育成が効果として期待される知識構成型ジグソー法を導入する必要性と意義は大きい。また、知識構成型ジグソー法を実施した先行研究について、小児看護学での学生76名を対象とした研究では、自身の課題と責任の所在が明確になった(藤田ら, 2018)と報告しており、末次(2019)も知識構成型ジグソー法で展開したBLS(Basic Life Support; 一次救命処置)教育において、学生の心肺蘇生手技の技術得点は平均9.4点であり、従来の講義と実技演習を実施した年度の技術得点の8.9点と比較して高く、授業評価の授業満足度は平均95%であったと述べている。しかし、小児看護学や基礎看護学であり、母性看護学での研究は見当たらない。さらに、海外においては、従来のジグソー法の研究(Suarez-Cunquerio et al, 2017; Oakes et al., 2019)はあるものの、知識構成型ジグソー法の研究が見当たらない。そのため、母性看護学概論で知識構成型ジグソー法を導入することで、今後母性看護学でのさらなる多様化に適應できる能力の育成につながり、国内外での波及効果ならびに看護過程や妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの各論への応用等、普遍性が示唆される。

本稿では、母性看護学における知識構成型ジグソー法を取り入れた教育法の実践内容および学生の学習評価について報告する。

## II. 方法

### 1. 対象学生

2019年の看護系大学2年の母性看護学概論にて、リプロダクティブヘルスケアの講義を受講した学生100名を対象とした。

### 2. プログラム内容(図1)

母性看護学概論は、学部2年次生の母性看護学の最初の必須講義科目に位置付けられており、科目全体は、8コマで構成されている。学習項目は、母性看護学の主要な概念と特性、母性看護における倫理、母性看護学の対象理解、母性看護の変遷・現状と対象を取り巻く環境、女性のライフサイクル各期の看護、リプロダクティブヘルスケアに大別される。このうち、本プログラムを導入したのは8コマ中の最後の2コマであり、リプロダクティブヘルスケアに関する項目である。主な内容としては、性感染症、Human Immunodeficiency Virus(以下、HIV)、喫煙、性暴力、国際化社会である。プログラムは、知識構成型ジグソー法の一般的な実施方法と同様、以下の6つのセッション(ステップ)の順で構成し、2名の教員で実施した。

#### (1) 事前学習:ステップ1(表1)

本プログラムでは、まず課題を設定した。課題の設定にあたっては、協働学習を引き起こすために必要な「一人では十分な答えのでない問い」となるよう、「各テーマ(性感染症、HIV、喫煙、性暴力、国際化社会)における看護支援が必要な理由とその理由に対応するための看護支援を具体的に説明する。」とした。最初に、プログラムの事前オリエンテーションを実施し、

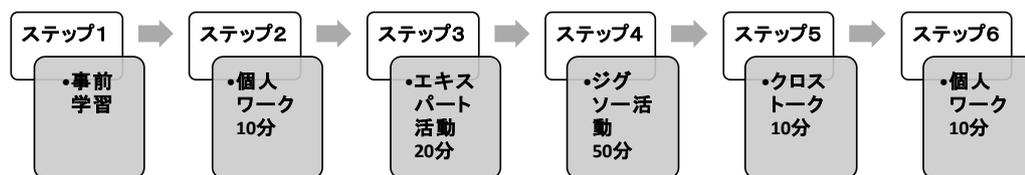


図1 プログラムの構成

表1 各エキスパート活動の課題

NO	テーマ	エキスパート1	エキスパート2	エキスパート3
1	性感染症とその予防	社会的現状と課題	身体的影響	心理的影響
2	HIVに感染した女性に対する看護	社会的現状と課題	妊産褥婦への身体的影響	妊産褥婦への心理的影響
3	喫煙女性の健康と看護	社会的現状と課題	妊婦への身体的影響	胎児・新生児への影響
4	性暴力を受けた女性に対する看護	社会的現状と課題	身体的影響	心理的影響
5	国際化社会と看護	社会的現状と課題	在日外国人に対する在日外国人から見た母子への課題	在日外国人に対する日本人から見た母子への課題

課題を説明した。そして、各課題を達成するにあたり、各テーマを3つのエキスパート活動グループに分け、各グループで異なるエキスパート活動の課題について、母性看護学概論の教科書(堤ら, 2019)等を参考に、事前学習してもらった。例:性感染症とその予防についての社会的現状と課題/身体的影響/心理的影響

## (2) 個人ワーク:ステップ 2

自己のエキスパート活動テーマについて、各自が個人ワークで、自分の考えを整理する時間を設定した。個人ワークの時間は10分であり、各自自己の考えをリアクションペーパーに記載した。例:性感染症とその予防についての身体的影響について記載(個人)

## (3) エキスパート活動:ステップ 3(図 2)

エキスパート活動は、エキスパート活動グループの課題について理解を深める活動である。3~4名で構成された同じテーマの中の各エキスパート活動グループで、自分たちの課題について、内容や意味を話し合い、グループで理解を深める時間を設定した。エキスパート活動の時間は20分であり、各エキスパート活動グループで、グループの考えをリアクションペーパーに記載した。例:性感染症とその予防についての身体的影響について記載(グループ)

## (4) ジグソー活動:ステップ 4(図 2)

ジグソー活動は、各エキスパート活動の知識を共有し、組み合わせることによって、各テーマに対する課題への答えを導き出す活動である。ジグソー活動では、グループを組み替えて、異なるエキスパート活動を検討してきたメンバーで新しいグループ(ジグソー活動グループ)を組んだ。そして、異なる内容について学習してきたメンバーがステップ 3 のエキスパート活動の学習内容を説明し合った。理解が深まったところで、それぞれのパートの知識を組み合わせ、課題への回答をつかった。ジグソー活動の時間は50分であり、ジグソー活動グループの考えをリアクションペーパーに記載した。エキスパート活動およびジグソー活動のグループ編成については、教員が履修学生

をランダムに1グループ3~4名となるよう割り付けた。また、各グループの活動中、教員は学生が自分なりに考えて課題に答えを出すプロセスを邪魔しないよう、見守る姿勢をとった。例:性感染症とその予防における看護支援が必要な理由とその理由に対応するための看護支援を具体的に記載(グループ)

## (5) クロストーク:ステップ 5

ジグソー活動グループで実施した。課題に対する回答を、その根拠も合わせてクラスで発表しクラス全体で議論した。クロストークは、発表を通して、一人ひとりが自分なりのまとめ方を考察していく過程であり、各グループ10分とした。教員は自己の考えを正解やまとめとして提示せず、学生個々の表現を大切にしながら学生間の学習が深化するような発問を心がけながらファシリテートした。

## (6) 個人ワーク:ステップ 6

ステップ 2 の個人ワークの内容に再び向き合い、最後は一人で課題に対する回答を記載した。例:性感染症とその予防における看護支援が必要な理由とその理由に対応するための看護支援を具体的に記載(個人)

## 3. 評価方法

プログラムの評価には、無記名自記式質問紙を使用した。方法は、実施前に口頭と文章で主旨や目的・方法等を説明し、2コマの講義終了後に調査者以外が質問紙を配布した。質問紙への回答は5分程度であり、科目終了後の時間を利用して回答してもらい、回答後は専用の回収箱に投函してもらった。

測定用具は、調査者が自己にて作成した質問紙であり、藤田ら(2018)の調査を参考に作成した。質問紙の内容は、対象の属性、5段階のリッカート尺度(1=「全くそう思わない」~5=「とてもそう思う」)による知識構成型ジグソー法の学習評価9項目とフリーコメントとした。

## 4. 分析方法

対象の属性および知識構成型ジグソー法の学生による学習評価は、統計ソフト SPSS Statistics25 を使用し、記述統計量を算出した。フリーコメントについては、記載内容をコード化し、類似性に従ってカテゴリー化した。

## 5. 倫理的配慮

本実践報告の実施にあたり、対象者への時間的拘束が最小限となるよう、質問紙の項目を精選した。また対象者へは調査内容を口頭と文書で説明し、回答は強制でない旨を伝えた上で、調査協力を同意をする場合のみ、質問紙を回収箱に投函するよう依頼した。さらに調査への協力は任意であること、協力の有無にかかわらず、授業評価に影響することは一切ないこと、協力する場合でも答えたくない質問には答えなくてよいこと、質問紙は無記名であり、個人が特定されることはないこと、調査結果は論文としてまとめ専門の学会等で公表すること、得られたデータは研究期間満了まで厳重に保管し、その後シュレッダーにて破棄すること等を口頭および文書にて説明した。

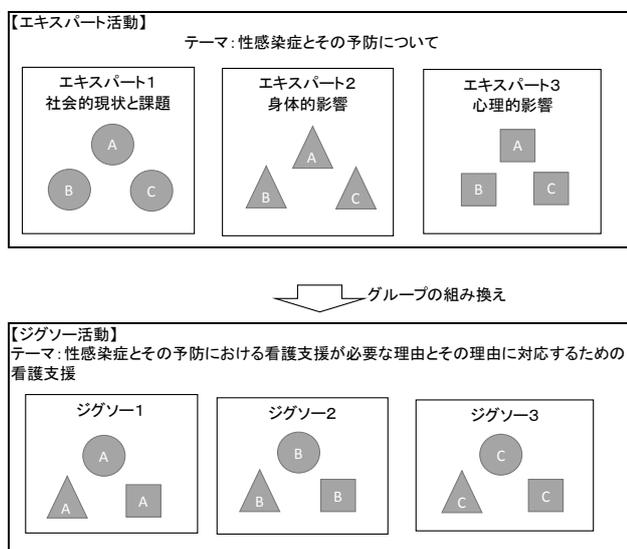


図2 エキスパート活動とジグソー活動

### Ⅲ. 結果

総リクルート数は看護系大学の学部2年生100名であり、98名から回答が得られ、98名全員を分析の対象とした(回収率98.0%、有効回答率100.0%)。

#### 1. 対象の属性(表2)

知識構成型ジグソー法を聞いたことがある割合は、あるが4名(4.1%)であり、ないが94名(95.9%)であった。過去の知識構成型ジグソー法の授業の参加では、93名(94.9%)がないと回答した。予習時間は、15分未満が17名(17.3%)であり、15分以上30分未満が48名(49.0%)と一番多く、30分以上1時間未満が26名(26.5%)であった。

		n=98
		n(%)
学年	大学2年生	98(100)
知識構成型ジグソー法を聞いたこと	ある	4(4.1)
	ない	94(95.9)
知識構成型ジグソー法での授業の参加	ある	5(5.1)
	ない	93(94.9)
予習時間	15分未満	17(17.3)
	15分以上30分未満	48(49.0)
	30分以上1時間未満	26(26.5)
	1時間以上	7(7.1)

#### 2. 知識構成型ジグソー法の学習評価(表3)

知識構成型ジグソー法の学習評価について、「自分に適していた」では、「とてもそう思う」1名(1.0%)、「少しそう思う」50名(51.0%)であった。「ジグソー法での学習はリプロダクティブヘルスケア(課題)の理解に役立った」では、「とてもそう思う」14

表3 知識構成型ジグソー法の学生による学習評価

項目	n(%)				
	とてもそう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
自分に適していた	1(1.0)	50(51.0)	38(38.8)	7(7.1)	2(2.0)
ジグソー法での学習はリプロダクティブヘルスケア(課題)の理解に役立った	14(14.3)	62(63.3)	18(18.4)	4(4.1)	0(0)
ジグソー法での学習は自己のテーマの理解に役立った	23(23.5)	59(60.2)	12(12.2)	4(4.1)	0(0)
担当した箇所を他のグループメンバーに分かりやすく説明することができた	5(5.1)	49(50.0)	38(38.8)	6(6.1)	0(0)
グループワークに積極的に参加できた	23(23.5)	58(59.2)	14(14.3)	1(1.0)	2(2.0)
グループワークに責任をもって参加できた	23(23.5)	61(62.2)	11(11.2)	1(1.0)	2(2.0)
グループワークはメンバー全員が協力して進めることができた	35(35.7)	49(50.0)	11(11.2)	3(3.1)	0(0)
ジグソー法は講義型授業よりも楽しく学習できた	18(18.4)	39(39.8)	34(34.7)	5(5.1)	2(2.0)
他のグループワークもジグソー法で学びたい	8(8.2)	28(28.6)	46(46.9)	13(13.3)	3(3.1)

名(14.3%)、「少しそう思う」62名(63.3%)、「ジグソー法での学習は自己のテーマの理解に役立った」では、「とてもそう思う」23名(23.5%)、「少しそう思う」59名(60.2%)であった。また「担当した箇所を他のグループメンバーに分かりやすく説明することができた」では「とてもそう思う」5名(5.1%)、「少しそう思う」49名(50.0%)、「グループワークに積極的に参加できた」では、「とてもそう思う」23名(23.5%)、「少しそう思う」58名(59.2%)であった。さらに「グループワークに責任をもって参加できた」では、「とてもそう思う」23名(23.5%)、「少しそう思う」61名(62.2%)であり、「グループワークはメンバー全員が協力して進めることができた」では、「とてもそう思う」35名(35.7%)、「少しそう思う」49名(50.0%)、「ジグソー法は講義型授業よりも楽しく学習できた」では、「とてもそう思う」18名(18.4%)、「少しそう思う」39名(39.8%)であった。「他のグループワークもジグソー法で学びたい」のみ、「少しそう思う」28名(28.6%)、「どちらでもない」が46名(46.9%)であり、「どちらでもない」と回答した学生が多かった。

#### 3. 主なフリーコメント(表4)

主なフリーコメントでは、【学習への理解を深められた】、【他者の意見を傾聴できた】、【責任が持てた】、【新鮮だった】、【時間が短かった】の5つのカテゴリーに分けられた。

【学習への理解を深められた】では、「パズルのピースがあてはまるように知識への理解が深まったのでとても良かった。(3名)」等の意見があった。【他者の意見を傾聴できた】では、「いつも以上に自分が知らないことなので、人の意見を理解しようという気持ちになった。(2名)」、【責任が持てた】では、「自分の分野を調べ、理解あることに責任を持ち授業に臨むことが出来たので良かった。(2名)」、【新鮮だった】では、「講義ばかりより

表4 主なフリーコメント (n)

カテゴリー	コード
学習への理解を深められた	パズルのピースがあてはまるように知識への理解が深まったので、とても良かった。(3)
	他分野の人とグループワークを行い、自分の分野を説明することで自分自身の学習が深まったので非常に良いと思った。(5)
	はじめてやる学習法であったけど、自分の枠が決められているため、より深く学習できた。(4)
他者の意見を傾聴できた	各自調べてきたことをグループメンバーに共有することで新たな知識を得ることができた。(2)
	初めて知識構成型ジグソー法の授業をうけ、いつも以上に自分が知らないことなので、人の意見を理解しようという気持ちになった。(2)
責任が持てた	自己学習不足はメンバーに迷惑がかかるため責任を感じた。(1)
	自分の分野を調べ、理解あることに責任を持ち授業に臨むことが出来たので良かった。(2)
新鮮だった	初めての方法だったのでとても新鮮だった。講義ばかりよりもこのような方法での学習だと、様々な視点から考えることができるので良い。(5)
	初めてだったので、とても良かった。(2)
時間が短かった	STEP3の時間が短い。(1)
	スライド作成まで行うなら、もう少しグループワークの時間が欲しかった。もっとパワーポイントを書きたかったのに書けなかった。講義内で時間がとれないなら自宅で出来るようにして欲しい。(4)

もこのような方法での学習だと、様々な視点から考えることができるので良い。(5名)」という意見があった。【時間が短かった】では、「スライド作成まで行うなら、もう少しグループワークの時間が欲しかった。(4名)」という意見があった。

#### IV. 考察

##### 1. 知識構成型ジグソー法の学生による学習評価

自己評価による学習評価では、9項目のうち8項目で半数以上の学生が「とてもそう思う～少しそう思う」と回答しており、評価が高い傾向にあった。その中でも、約8割以上の学生が「とてもそう思う～少しそう思う」と回答し、特に評価が高かったのは、「ジグソー法での学習はリプロダクティブヘルスケア(課題)の理解に役立った」、「ジグソー法での学習は自己のテーマの理解に役立った」、「グループワークに積極的に参加できた」、「グループワークに責任をもって参加できた」、「グループワークはメンバー全員が協力して進めることができた」であった。看護学では、多様な価値観を認め理解する力、正解のない課題に自分の考えを生み出す力、他者と協調しながら解決する力が求められている。そのため、本報告では、知識の深化(正解のない課題に自分の考えを生み出す力に該当)と協調性の育成と課題の設置(多様な価値観を認め理解する力、他者と協調しながら解決する力に該当)について考察する。

知識の深化について、金子(2016)は、知識は多角的な視点から見たいくつかの知識を統合することによって、より確実な、より深い知識へと進化する。さらに、学習者は問いと答えとを様々な教材・話し合い・思考によって繋ぎ合わせようとする努力を通して、問いと答えを巡る自己の知識を確実なものにすることができると述べている。つまり、知識を用いて様々な視点から多角的に考えることが知識の深化には有効である。本プログラムの構成内容も、各課題について、個人で考える・エキスパート活動グループで考える・ジグソー活動グループで考える・クロ

ストークで考えるとなっており、最初に出した自己の回答をすべてのステップで視点を変えて思考しパズルを当てはめるように統合している。本報告結果での学生の回答も「ジグソー法での学習はリプロダクティブヘルスケア(課題)の理解に役立った」、「ジグソー法での学習は自己のテーマの理解に役立った」の項目の評価が高かった。さらに、フリーコメントでも、【学習への理解を深められた】では、「パズルのピースがあてはまるように知識への理解が深まったのでとても良かった。」と述べている。したがって、視点を変えて考えたことを統合することが効果的であり、このステップを通して知識の深化につながったことが示唆される。

次に、協調性の育成について考察する。協調学習とは、多様な受講者による多様性や多角性を活用し、目標のもとに、互いの知力を最大限に出し合い、新たな知識を創生し、新たな知識・情報、他者との意見交換、自己の思考などとの相互作用を経て、全員がその成果を共有する学習である(CoREF, 2015)。さらに、協調学習では、例えば受講者の3名はただの3名ではなく、自らの持つ卓越性・専門性を始めとして、自らの資源を最大限活用して成果を創造することに貢献することが期待できる3名であり、協調性の育成は、責任感や積極性の育成にもつながる(金子, 2016)。また千葉ら(2010)は、グループワークで相互互惠的に課題を振り分けることによって、コミュニケーションの機会が増え、グループワークがより活性化すると報告している。本報告結果でも「グループワークに積極的に参加できた」、「グループワークに責任をもって参加できた」、「グループワークはメンバー全員が協力して進めることができた」の項目評価が高値であった。フリーコメントでも、【責任が持てた】では、「自分の分野を調べ、理解あることに責任を持ち授業に臨むことが出来たので良かった。」と述べている。つまり、知識構成型ジグソー法でのステップを通して、自らの考えを人に伝える力、他者の発言を聴く力、それらを総合した話し合う力を養うことは、協調性の育成ならびに責

任感、積極性などの資質の育成の一助となると考えられる。

さらに、知識構成型ジグソー法では、課題の設定が大きなカギとなる。課題は、適切な難易度があり、多角性に優れ、統合可能である必要がある(金子, 2016)。本プログラムの課題の設定は、「各テーマ(性感染症、HIV、喫煙、性暴力、国際化社会)における看護支援が必要な理由とその理由に対応するための看護支援を具体的に説明する。」であり、いずれも社会において課題が山積みなテーマであり、難易度が高く多様性に富む課題である。さらに、ジグソー活動では、各自のエキスパート活動の内容について、異なる内容を学習してきたメンバー同士で統合できる課題にした。このように、他者の意見が聴ける課題を設定することが、知識の深化ならびに協調性の育成に効果的であると考えられる。本結果のフリーコメントでも、【他者の意見を傾聴できた】では、「いつも以上に自分が知らないことなので、人の意見を理解しようという気持ちになった。」と述べている。

以上より、昨今、専門家が伝えた情報を覚えればよい時代とは異なり、知識を得るスキルよりも知識を創り出し構成する資質・能力(スキル)が重要になっている。本報告の結果とそれを受けての考察により、知識の深化や協調性の育成について、効果的であることが示唆されたため、知識構成型ジグソー法による学習効果は期待できると考える。

## 2. 母性看護学概論導入への意義

本プログラムは、母性看護学概論にて、リプロダクティブヘルスケアの項目で実施した。母性看護学概論の構成内容は、胎児はいつから人間か、出生前診断等の倫理的問題、母性とは何かなどの問題から、保健統計学や子育て支援の施策の単なる基本的知識の獲得だけでなく、そこから課題を読み取る思考力を育成する項目と、多岐にわたっている。したがって、基本的な知識や理解の定着のみならず、正解のない課題に対し考え、他者の意見を参考に、自らの答えを生み出していくことが求められる。そのため、このような内容に対し、知識構成型ジグソー法を積極的に導入することの必要性和意義は大きい。

## 3. 今後の課題

知識構成型ジグソー法を実施するにあたり、答えを考える時間、学習者同士が話し合う時間を十分に確保することが重要である(益川, 2016)。フリーコメントでも、「講義内で時間がとれないなら自宅で出来るようにしてほしい。(全体)」、「STEP3(エキスパート活動)の時間が短い。」、「スライド作成まで行なうなら、もう少しグループワークの時間が欲しかった。(ジグソー活動)」と記載があったことから、今後の課題は、本学習法全体の実施時間を増やすこと、特にエキスパート活動とジグソー活動の時間を十分に確保することである。

さらに、予習の意義について篠ヶ谷(2008)は、知識同士の関連の理解促進し、より詳細な内容や知識同士の関連に興味に向けられると述べている。予習方法について五十嵐ら(2016)は、書籍から何を学ぶかを説明することが重要であると述べている。本プログラムでの予習の説明は、予習範囲の周知に留ま

り、その意義や内容まで説明していなかった。そのため、今後の課題として、予習の意義や内容を明確に対象者に説明することであり、説明により効果的な予習が実施され、理解と興味が促進され、結果的に効果的な学習へと発展することが示唆される。

また、本報告の結果から、前述したように、看護学全般では、日々変化していく社会に適応していく力を養うことが課題であり、母性看護学においても重要である。したがって、今後は、看護過程や妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの各論等、他の母性看護学での科目への導入と応用への実施が示唆される。

## V. 結論

母性看護学概論における知識構成型ジグソー法に対する学生評価として、学習理解や学習意欲などの評価が高かった。またグループワークに対する協調性や責任感、積極性に関する学生評価も高く、知識構成型ジグソー法はこれらの能力の育成につながるということが示唆された。今後はプログラム構成の精選や他の母性看護学科目への応用が求められる。

論文内容に関し開示すべき利益相反事項はありません。

## 謝辞

本研究に協力いただいた、対象者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- Aronson, E., Bridgeman, D. & Geffner, R. (1978). Interdependent interaction and prosocial behavior. *Journal of research and development in education*, 12(1), 16-27.
- 千葉泰介, 武川直樹, 望月俊男, 山下清美(2010). 学生のグループワークを活性化する要因の調査. *専修ネットワーク&インフォメーション*, 16, 1-8.
- eラーニング戦略研究所(2017). 大学・専門学校におけるアクティブラーニング実施に関する調査報告書. <https://www.digital-knowledge.co.jp/wpcontent/uploads/2017/03/active-learning-investigati-univercity.pdf>(検索日:2019年9月6日)
- 藤田優一, 北尾美香, 植木慎悟, 藤原千恵子(2018). ジグソー法を取り入れたアクティブラーニングに対する学生からの評価:小児看護学演習科目における看護過程展開の実践報告. *日本看護科学学会誌*, 38, 237-244.
- 五十嵐ゆかり(2016). トライ!看護に TBL チーム基盤型学習の基礎のキソ(42). 東京:医学書院.

- 金子文予(2016). 知識構成型ジグソー法の本質あるいは今日的意義. 西武文理大学サービス経営学部研究紀要, 28, 3-14.
- 公益社団法人日本看護協会(2015). 2025年に向けた看護の挑戦 看護の将来ビジョン. <https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf>(検索日:2019年9月6日)
- 益川弘如(2016). 知識理解と資質能力育成を同時に実現するジグソー法の理論と実践. 薬学雑誌, 136(3), 369-379
- 文部科学省(2015). 新しい学習指導要領等を目指す姿. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm) (検索日:2019年7月18日)
- Oakes, D. J., Hegedus, E. M., Ollerenshaw, S. L., Drury, H. & Ritchie H. E. (2019). Using the jigsaw method to teach abdominal anatomy. *Anat Sci Educ*, 12(3), 272-283. DOI:10.1002/ase.1802.
- 篠ヶ谷圭太(2008). 予習が授業理解に与える影響とそのプロセスの検討 学習観の個人差に注目して. *教育心理学研究*, 56(2), 256-267.
- Suarez-Cunquerio, M. M., Gandara-Lorenzo, D., Marino-Perez, D., Pineiro-Abalo, D. & Perez-Lopez, I. T. (2017). Cooperative learning in 'Special needs in dentistry' for undergraduate students using the jigsaw approach. *Eur J Dent Educ*, 21(4), e64-e71. DOI:10.1111/eje.12221
- 末次典恵(2019). ジグソー学習法で展開した看護学生を対象とした Basic Life Support (BLS) 教育の評価. *南九州看護研究誌*, 17(1), 1-7.
- 東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) (2015). 知識構成型ジグソー法. <https://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>(検索日:2019年7月18日)
- 堤治, 工藤美子, 高橋真理, 島袋香子, 上別府桂子, 岩田裕子(2019). リプロダクティブヘルスケア, 森恵美(編), 系統看護講座専門分野II 母性看護学概論(250-316). 東京:医学書院.
- World Health Organization(1994) <https://www.who.int/reproductivehealth/en/>(検索日:2019年7月19日)